

## 平成 31 年 4 月総務企画委員会 議事概要

H31.4.17 作成

日 時：平成 31 年 4 月 16 日（火） 18：00～19：30

会 場：建築士会会議室

出 席：

（業務執行理事兼委員長）芝 京子

（委 員）天神 正志、伊藤 誠一、長田 喜樹、玉野 直美、沼田 有二、村島 正章、  
島 宏好

オブザーバー：須藤専務理事、宮林事務局長

### <確 認 事 項>

#### 1 前回(3/12)議事録の確認【資料1】

- ・異議なく承認

### <協 議 事 項>

#### 1 平成 31(令和元)年度委員会審議・検討スケジュール 【資料2】

- ・委員から案の説明。以下の質疑を除き、特に意見なし。

（質疑）

（委員）・1級製図試験のための施設見学会は青年委員会が主体となり、昨年は総務企画委員会も運営に協力したが、今年度も予定してよいか。

（委員）・合格者の入会に結び付く重要なイベントと思うが、一方で運営の負担は軽くない。また今年是有力メンバー数名が卒業するため、戦力ダウン。残ったメンバーでどこまで、できるか検討していく予定。

#### 2 委員会構成員のあり方 【資料3】

- ・委員から、委員会再編の検討と合わせて、委員の選出等のあり方が必ずしも明確ではなく、それも見直さないと実効ある改善にならないのではと提案。

（質疑）

（専務）・任期が不明ではないかとの質問だが、4年前から、役員改選期に合わせて、その都度、すべての委員会の委員に会長名の委嘱状を交付する形を整えている。従って、委員会規程では明記されていないが、任期は2年単位ということになる。

（委員）・委員構成の固定化・新旧交代の遅滞の原因には、委員のなり手が少ないという問題があるのではないか。

（委員）・青年委員会は、45歳定年制により新旧交代が図られているが、従前から指摘されているとおり、卒業生でも引き続き士会活動の意欲のある人の行き場所がない、という問題はないのか。

（委員）・その他の委員会へ直に転籍する、という仕組みは用意されていないが、今年の卒業生は、いったん所属支部での活動にウェイトを移すという形で、士会活動を継続する予定。その上で、本会委員会が支部からの派遣委員を求めた場合、それ

に乗って委員会活動も担ってもらおうというルートもあり得る。

- ・他県士会では、各支部にも青年部が設けられ、支部からの派遣という形で本会員委員会への若手人材供給源となっている。
- (委員)・支部ごとに青年部や女性部が設置されている県は、県土が広大で一堂に会するのが困難といった事情もあると思う。神奈川では、集まろうと思えば横浜に集まってしまう、あるいは、支部の人数が少ないところでは青年・女性でまとまったグループを作れないということで、全く同じ方法はとれないだろう。
- (専務)・青年委員会活動の魅力としては、イベントの共同実施による高揚感より、むしろ自らのスキルアップにつながる活動を求める声があると聞く。
- (委員)・現状では容易でないとしても、将来独立して自分の事務所を構えるためのノウハウやスキルを得る、といったテーマを打ち出すことも考えられる。
- (委員)・総務企画委員会委員の現状の職域別構成等は妥当だろうか。なお、行政職員については、歴代、士会と行政との連携確保という趣旨で就任をお願いしている。
- (委員長)(委員)・行政庁出身の委員だが現状の県・横浜・川崎に加えて、同じ政令指定都市の相模原出身者を加えることも要検討。
- (委員)・当委員会における現役行政職員の役割は、正直いって見えにくい部分がある。支部であれば、現職が役員に就任することに格別の違和感はないが。
- (委員)・現役職員としては「何か必要が生じた場合にサポートする」というスタンス、つまり在籍すること自体に意味がある参加形態と思う。
- (専務)・委員会再編構想であるが、前会長時代からの引継ぎ事項でもある。定款に定められた各事業を、的確に実施できるような委員会体制とすることが、再編の趣旨であり、会長がリーダーシップを振るうべき場面と思う。会長の委員会人事に対する発言権の可否等も、その目的に照らして議論すべきだ。
- (委員)・会員増強の検討チームでは、「委員会再編」も検討テーマの一つとして議論しているのか。
- (委員)・会員増強のためにも必要との考え方で検討。ただし、十分な議論を重ねる必要があるので、次の役員改選時に実施というイメージ。
- (委員)・現在の委員会構成と、連合会の委員会構成との関連は？
- (専務)・連合会の構成に似ている印象はあるが、それにとられる必要はないだろう。

### 3 熱闘甲子園事業 【資料4】

- ・委員から、事務局作業の軽減のため、委員会としても支援が必要と提案。

(質疑)

- (専務)・教育界における建築士会の知名度向上の効果は期待できる。ただし、インターンシップについては、①インターン先事業所の確保、②参加生徒との連絡調整等が課題。②について、一般的に学校は生徒への電話取次は行ってくれないので、こまめなメール連絡が必要。かなりの手間を要する。
- (委員)・委員会としてもインターン先の開拓、インターン実施時の同行・立会、参加生徒へのメール連絡の担当（1委員あたり生徒2名等）を検討する必要あり。

4 その他 【資料5】

- ・通常総会懇親会の進行等について意見交換。

<報告事項>

1 平成30年度入会案内活動結果 【資料6】

- ・委員より、現時点での入会状況等を報告

2 その他

- ・委員より、情報広報委員会で士会紹介リーフレットの作成開始、意見があればお寄せ願うとの報告。

<その他>

次回以降の委員会等について

平成31年 5月21日(火) 第368回理事会、5月総務企画委員会

平成31年 5月29日(月) 平成31年度総会